


出張報告

報告日 令和5（2023）年11月15日

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	これからの学校教育環境について
日時	11月6日（月） 9：00～ 11：30
場所 （会場）	内田洋行
調査項目等	これからの学校教育の在り方
概要	<p>内田洋行ビルにて</p> <ol style="list-style-type: none">「新しい時代の学び舎」の説明<ul style="list-style-type: none">これからの学校に求められる機能（個別最適な学び、情報化、協働的な学び、ハイブリット授業、STEAM教育、メディアセンター、働き方改革など）普通教室（教室の規模、机の大きさ、ロッカーの配置、廊下との区切り） 教室の面積は64平方メートル（8m×8m）が全体の69%の学校で採用、机の大きさは新JIS規格の65cm×45cmが全体の50%で採用、可動式ロッカーにして教室内に設置でなく、廊下に移動できるようにしているところもある。メディアセンター（図書館機能とICT環境の整備）特別教室（多目的な活動へ柔軟に対応、移動が容易な机）校務センター（フリーアドレスの職員室、開かれた事務室、生徒への対応）実際に導入した学校事例の紹介、説明展示場の見学<ul style="list-style-type: none">タブレットの有効な活用のための環境整備タイムラグなしのインターネット常時接続による他校との情報交換、学校生活の共有 

所 感 等	<p>(重野正毅)</p> <p>時代の流れ、ICTの流れに逆らうことはできない現在、教育界も進むべき方向は見えていると思う。今より進んだICT環境を導入するかしないかの議論ではなく、導入することが前提で、子どもたちのため、時代に取り残されない子どもを育てるために、どういうものを、どういう場面で、どう運営していくのかという流れになっていると考える。しかし、柏崎においては実際に先進的な学校の設えなどハード面はどういうものなのか、すでに導入している学校の状況はどうなのかということがイメージしづらい。ここではこれからの教育環境、学校のしつらえにおける理念の具現化を見せてもらえたように思う。これをそのまま柏崎に導入するとかではなくても、教育界の進むべき方向としてのイメージを持ち、多くの人と語り合うことで、教育に携わる方々の考え方を少しずつ柔軟なものに変えていければいいと考える。</p> <p>また、今後改築する学校において、教室や廊下、机などのサイズも確認し、子どもの生活空間としてふさわしいものなのかにも視点を当てていきたいと思った。同時に、教職員にとっても働きやすい空間になっているのか、職員室の設え、ICTの環境整備にも焦点を当てていきたいと思った。</p>
-------	--

報告日 令和5（2023）年11月15日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人・重野正毅
種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	先進的なオフィスの状況について
日 時	11月6日（月） 13:00～ 15:00
場 所 （会場）	イトーキ XORK
調査項目等	先進的なオフィスの状況
概 要	<p>イトーキ社オフィスにて</p> <p>1 「次世代の働き方戦略として XORK Style（ゾーク・スタイル）」の説明 ・行動の自由を支えるABW（Activity Based Working）の考え方に基づく 10の活動（高集中・コワーク・電話/Web会議・二人作業・対話・アイデア出し・情報整理・知識共有・リチャージ・専門作業）。想定されるワーカーの活動を10のふるまいに分類し、それぞれの活動で生産性と創造性を最大にする空間機能をデザインした。</p>

・こころの自由を支えるスマートウェルネスオフィス。オフィスビルで働く方の健康・快適性に関するハード・ソフトの取組と、建物の環境性能等を含めたビル。

2 オフィス見学

- ・高層ビルの3つのフロアをオフィスとしている。その間を階段で移動できるような設えにし、すべてをフリーアドレス化している。
- ・コワーキングスペース、モバイルスペース、チームとしての情報整理スペースなどの実際。



所感等

(三宮直人)

イトーキの最新のオフィスでは、作業やコミュニケーションの形態に合わせてスペースを配置し実際にそのスペースを社内で利用しトライ&エラーを繰り返し習熟させ更に良いオフィスをお客様へ提供する姿勢に感心した。また、オフィスで働く従業員の様子を見ると紙の資料が極端に少なくパソコンやタブレットで作業をしていた。デジタル化やネットワーク化によるペーパーレス化が進みフリーアドレス化などが実現できていると思った。

「イノベーション」と言われて久しいが、働き方改革と同時に働く場の改革も必要と思った。

(重野正毅)

オフィスはすでに15年前から自席を持たないフリーアドレスで様々な効果を上げていると説明され、自分の認識の甘さ、時代遅れの感を痛感した。特にコロナ禍によりその流れは加速しており、首都圏のみならず、地方にも広がりを見せていることが分かった。このイトーキは800人ほどの従業員がいるとのことだが、今日オフィスに出社している人はその22%ほどであり、そのオフィスでの働き方も一見自由に見えるのだが、それぞれが目的を持ち、その目的達成のための場所を選び、効率的な動きをしていることが感じられた。

今のオフィスの考え方として、オフィスは連帯感を高める、つながりを創り出すところとしており、アイデンティティ、チームワーク、学び、相互信頼をそれぞれ高める空間をコンセプトとしている。この考え方自体、昔ながらのオフィスと言う感もあるが、在宅勤務が広がっている現在にあって昔とは1周も2周も先を行っている結果としてのものになると思った。この形態を柏崎のオフィスにそのまま導入することは難しいと思われるが、先進オフィスのイメージを持てたことは有意義であった。

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人・重野正毅
種別	■調査研究（□行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	障害者雇用を進める企業の取組について
日時	11月7日（火） 9：00～ 10：30
場所 （会場）	トランス・コスモス
調査項目等	障害者雇用の取組
概要	<p>トランス・コスモス社オフィスにて</p> <p>1 「ノーマライゼーション推進への取り組み」についての説明</p> <ul style="list-style-type: none">・障害者が働く価値を見いだせる仕組みづくりと職場づくりを目指す。健常者と同じ人事制度で評価される。・障害者雇用への取組は、2005年にトップダウンによる障害者雇用の促進から始まった。・障害者雇用推進体制として、2008年に障害者雇用の専門部署（ノーマライゼーション推進統括部）を組織した。・障害者雇用率では、法定雇用率が2.30%のところ、現在は2.56%、660人の雇用がある。その方々全員障害者手帳を所有している。この660人のうち57%が身体、40%が精神、3%が知的の障害者である。雇用可能な職種として30種くらい求人を出している。毎年50人くらいを採用している。・障害者の業務としては、10年前まではサービス部門が2割、管理部門が8割だったが現在はサービス部門8割、管理部門2割になっている。サービス系業務としては、Webサイト構築、デザイン、スチール撮影、映像製作、インターネット広告、翻訳、ツール開発などに従事している。・障害者が働きやすい環境を目指して合理的配慮に取り組んでおり、同時に障害者支援機関との連携や定期面談なども適切に行い、現在は職場定着率が75%になっている。・令和5年度障害者雇用エクセレントカンパニー賞（東京都知事賞）受賞。 <p>2 オフィス見学</p> <ul style="list-style-type: none">・障害者が働く現場の実際。・障害者が制作したホームページやチラシの実際。



所感等

(三宮直人)

障がい者の雇用については柏崎市内の事業所や新潟県外の事業所との情報交換を通じて必要性を強く感じていた。神奈川県の実業 N 社では全社員 94 名中 66 名が知的障がい者であり、障害のある方々の仕事に対する真摯な姿勢をみて健常者の心に火が付いたとの話を聞いている。また、障がい者ができるように様々な作業改善をすることで健常者の作業も楽になり生産性が向上している。今回視察したトランス・コスモス社でも障害がある方々が生き生きと働いており健常者の方々にも好影響を与えているのではないかと思う。

(重野正毅)

現在事業所においては一定割合の障害者の雇用が求められている。トランス・コスモス社はそれを達成しているのみならず、社内における合理的配慮、社会貢献としての学校等への出張授業の実施などによりエクセレントカンパニー賞を受賞した。始まりがトップダウンからとはいえ、今はその理念は浸透し、障害者は重要な人材として戦力となっている。

オフィスを見学させてもらった時も web デザイナーとして精神の障害がある方、経理でも同様の障害がある方々が生き生きと働いていた。それらのチームのリーダーを任されている障害者もいるとのことだった。また、障害者を受け入れているだけでなく、人材育成の面から専門学校や中学校などへ出張授業を行って活動の広報をしたり障害者の将来に光をともす活動をしているところは素晴らしいと思った。ただ、手帳所有者のみで障害の程度もあまり重度ではない人を採用しているとのことなので、A 型 B 型の事業所とはかなり様子が違っていた。

柏崎として情報関連の仕事に受け入れられる可能性の大きさを感じた。既に障害者は大きな戦力として社会を支えている側に立っている存在であることを改めて感じた。

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人・重野正毅
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	先進的な学校施設の状況について
日時	11月7日（火） 14:00～ 15:00
場所 （会場）	板橋区立板橋第十小学校
調査項目等	先進的学校校舎・施設の状況 ～先進的学校校舎の施設見学を通して教職員の働き方改革にどのようにつなげているのか学ぶ～
概要	<p>板橋区立板橋第十小学校にて</p> <ol style="list-style-type: none"> 校内の施設見学 学校の教育環境についての説明 <ul style="list-style-type: none"> コクヨと千葉工大との連携により学校内の設えを開発した。 職員室のフリースペース化について、小学校としてはデメリットはない。学年担当者ごとに固まることもなく、多くの教員とのコミュニケーションが取れるメリットがある。小学校の学級担任は民間企業のいわゆる営業と同じく、職員室にほとんど戻らなくてもいいため、職員室の自席の確保に必要性を感じられないからである。 週2回放課後に全教職員が集まる会を行っているが、職員室には全員の場所は確保できている。 教室が学年ごとにまとまっており、廊下との仕切りも稼働でき、オープンスペースと廊下、教室を一体化した活動ができる。 教室内の机の配置は各クラスごと異なっており、担任として指導しやすいようになっている。 テストの採点はスクールサポートスタッフがすべて行い、各担任の個別ロッカーに入れておくようになっている、教員の負担軽減につながっている。 教室は8m×9mの仕様。机も新JIS規格。屋上に芝生が敷いてある一角があり、プールも屋上にある。 特別支援教室はない、板橋区では通級指導で対応している。 「赤ちゃんの駅」も玄関から入ったところに部屋が設置してあり、授乳にも対応できるようになっていた。 校長としてはこのような学校校舎の設えが広がっていった方がいいと感じており、最初は抵抗感のある教員もしばらくすると慣れるとのことである。



フリーアドレスの職員室（板橋第十小）

所感等

（三宮直人）

フリーアドレス化については、15年ほど前に在籍した製造業の職場で実施した経験がある。事務所の人員増加に対して新たに机を配置するスペースが確保できないことが背景にあった。調べてみると机に全員が座っているのは朝夕のみで朝夕以外は50%程度が座っていることがわかった。机を撤去しテーブル（確かイトーキ製）を置き、個人の書類やパソコンは棚下の個人別キャビネットに収納、テーブル利用の際はキャビネットを移動し作業、終わったらキャビネットを戻す形態をとった。板橋区立板橋第十小学校の職員室のフリーアドレス化の運用に近い。

教室の設えは母校の柏崎市立北条小学校と似ていたが、教室のレイアウトを各担任が自由に決められることに驚いた。子供たち話し合いながら決めていられると思われ、子供たちと担任教師が自分事として教室運営にかかわっており、成績にも好影響がでていると思われる。

（重野正毅）

小学校では学級担任がほぼ一日教室に出ているため、職員室に自席がなくてもいい状況だという。そのためフリーアドレスでも学校は支障なく回っているようである。全員が集まるときは週2回の放課後の終礼のときのみとのことである。教室と廊下の仕切りも開閉可能であり、学年ごとのオープンスペースもある。テストの採点はスクールサポートスタッフがすべて行うので、その分の担任の業務が軽減されている。校長はこのようなフリーアドレスの職員室や校舎の作りは広まった方がいいと考えているようだ。新しく転入した職員は最初戸惑うが直に慣れるようで、職員の意識を変えるより物的環境を変えることにより行動も考え方も変わる、変えるという方式を取ることは理にかなっているのかもしれない。デメリットはないと言い切っているように小学校としては効果的なようだ。

現在は板橋区でもこの第十小学校と上板橋第二中学のみがフリーアドレスの職員室にしているが、今後この地区だけでなく、全国的な広がりが見られる。

会派名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮直人・重野正毅
種別	■調査研究（■行政視察） □研修会 □要請・陳情 □各種会議
用務	先進的な学校施設の状況について
日時	11月7日（火） 16:00～ 17:00
場所 （会場）	板橋区立上板橋第二中学校
調査項目等	先進的学校校舎・施設の状況 ～先進的学校校舎の施設見学を通して教職員の働き方改革にどのようにつなげているのかを学ぶ～
概要	<p>板橋区立上板橋第二中学校にて</p> <ol style="list-style-type: none"> 校内の施設見学 学校の教育環境についての説明 <ul style="list-style-type: none"> ・教科センター方式は全国1万ほどの中学校のうち80校くらいが採用。板橋区では広めていこうとしているが、都内でもやっていたが辞めた中学校もあるとのこと。現在板橋区22校中3校が採用、今後2校増える予定。福井大学と連携し、福井県をモデルにしている。 ・職員室がフリーアドレスとなっているが、現状学年ごとに島をつくっており以前とあまり変わってはいない。校長としては中学校としてフリーアドレスは情報共有はできるがメリットは乏しいとのこと。 ・テストの採点は小学校とは違い、スクールサポートスタッフにはさせていない。 ・教科センター方式なので各教室とも廊下で仕切られており、通常の設えとは変わっていない。生徒は各自のロッカーをホームベース室に持っており、そこに個人の荷物を置き、教科の道具を時間ごとに入れ替えて、持って教室を移動している。 ・各教科の教科職員室があり、そこには教師の自席がある。そこに生徒からの提出物を集めて、処理をしている。教員が教科職員室にこもることを防ぐために、必ず授業後には職員室に戻ってくることになっている。 ・教職員の働き方は個人の考え方や取り組み如何によるもので、この校舎になったからといって早く退勤するとは限らないようだ。副校長が18:30の生徒退校時刻後に学校開放との仕切りの施錠をする。日直はいる。 ・板橋区では中学校は全地区選択制になっておる。学校の収容人数以上が集まった場合は抽選となる。小学校は学区がある。

・月1回NPO法人が中学校の一部を開放してもらい子ども食堂やフードパントリーを行っている。地域とのつながりは強い。



フリーアドレスの職員室
(上板橋第二中)

所感等

(三宮直人)

教育センター方式については今回の視察で初めて知った。数学教室ゾーン、理科教室ゾーン、英語教室ゾーン、国語教室ゾーンなどで校舎をゾーニングし、生徒は一つの教室で複数の授業を受けるのではなく、教科によりそれぞれのゾーンに移動して授業を受ける方式であった。この方式により学力だけでなく創造性やコミュニケーション力の向上に期待が持てると思った。また各教科ゾーンにはメディアスペースがあり関連する書籍等が用意されていたり、3階のメディアセンター(図書館)は大きなおしゃれな本屋のイメージで各種書籍が見やすく並べられており、中学生を意識した学習環境の整備が進んでいると思った。

(重野正毅)

教科センター方式は全国で80校くらいの採用にとどまっているとのことであるが、板橋区では現在22校中3校あり、今後2校増やしていく方針とのこと。全国的に採用しているところが多くないということからも柏崎としてもあまり魅力的だとは思われない。

また、職員室は第十小学校と同様にフリーアドレス化しているが、現在は以前と変わらないような学年ごとに島をつくる形になっている。校長もフリーアドレスについては中学校としてメリットは乏しいと話している。テストの採点は教科担任が行っているように、小学校との差はあるようだ。職員室に自席がなく引き出しもないが、生徒からの提出物は教科職員室の自席で処理しているとのこと。新しい学校で部屋数も多く、生徒にとっての環境も整っているがすべて効率的に機能しているとはいえないかもしれない。モデル校として今後の動きに注目していきたい。

このこと以外に、板橋区では中学校が学校選択制になっていることに衝撃を受けた。学校の受け入れ人数以上の生徒が募集してきたら抽選になるとのこと。これまでの自分の学校としてのイメージがかなり変わった視察になった。